

会 議 録	
会議名	令和5年度 山陽小野田市男女共同参画審議会（第1回）
開催日時	令和6年3月25日（月）14：00～15：40
開催場所	市民館 団体会議室
出席者	池田 直美、大塚 悠平、松村孝子、 大本 章男、岡部 つや子、藤永 美枝子、 堤 千佳子、縄田 一三、山本 俊則、 磯谷 美津子 委員数 15名 出席者数 10名 委任状 2名
欠席者	末永 育恵、梶原 美帆、吉田 章人、中村 聡、大木 雅子
事務局等	協創部長 篠原 正裕、協創部次長 河上 雄治、 市民活動推進課 係長 竹森 和貴、市民活動推進課 主任主事 田邊 碧
会議次第	1 開 会 2 辞令交付 3 部長あいさつ 4 自己紹介 5 会長・副会長の選任 6 議 題 さんようおのだ男女共同参画プラン令和4年度実績報告及び令和5年度実施計画について ・令和4年度実績報告（資料1） ・令和4年度指標による進捗状況（資料2） ・令和5年度実業計画（資料3） 7 閉 会
会議内容	議題 さんようおのだ男女共同参画プラン令和4年度実績報告及び令和5年度実施計画について 【事務局より、令和4年度実績報告（資料1）について説明】 (委 員) DV 相談件数の推移を知りたい。 (事務局) 令和1年39件、令和2年42件、令和3年46件、令和4年46件と推移している。 (委 員) 相談後、どのような結果になったのか知りたい。 (事務局) 結果は個人情報になるので、お伝え出来ないが、相談員は主に傾聴と関係機関への案内を実施している。 (委 員) 自分がDVの被害者であると気づいていない人もいる。このような人達が、自分がDVの被害者であることや相談先があることを知るきっかけとなるような啓発活動を実施してほしい。 (委 員) モラルハラスメントやアンコンシャスバイアスも自分では気づきにくい。 【事務局より、令和4年度指標による進捗状況（資料2）について説明】 (委 員) 指標のひとつに、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考えに賛成する者の割合がH28年度当初で、33.4%である。市民アンケートの結果であると説明を受けたが、回答者の性別等は分かるか。

(委員) 第4次さんようおのだ男女共同参画プランの12頁に、総計、男性、女性、年代別にアンケートの回答が掲載されている。これをみると、賛成する者の割合は、女性よりも男性の方が多いことが分かる。

(委員) 男性も女性も男女共同参画の意識を持つことが重要。これからの地域では、特に防災や福祉の部分等で女性の活躍が必要。地域の活動にどんどん女性にも入ってきてもらいたい。

(委員) 「デートDV」は、まだ一般的に知られていないと感じることが多い。

(委員) 幼い頃からの「当たり前」が、固定観念（アンコンシャスバイアス）を作りだしている。

【事務局より、令和5年度実業計画（資料3）について説明】

(委員) 日本語教室の支援者養成講座は、どのくらいの参加者があったか。

(事務局) 令和5年度実施の養成講座は、18名の参加があった。

(委員) 市内の外国人の人数や国籍等をわかる範囲で聞きたい。

(事務局) 本市における外国人の人口は約900人で、増加傾向にあり、この傾向は続いていくと予想される。また、中国、ベトナム、インドネシアやフィリピン等様々な国から、技能実習等を目的として本市に来ている。多文化共生の観点から日本語学習の支援や国際交流などの事業の充実が必要である。

(委員) 日本語教室があることは、企業にPRしているか。

(事務局) 企業に勤めている技能実習生に日本語教室を知ってもらうため、企業への情報提供は実施している。

(委員) 外国人が日本語の勉強をするだけでなく、外国人にも伝わり易い、「やさしい日本語」を日本人も学ぶ必要がある。

(委員) ワークライフバランス、有給取得等も重要な考え方である。市役所が積極的に推進していくことで企業等への啓発にもつながる。柔軟な組織体制が企業や地域での女性の活躍にもつながると思うが、市役所での女性職員の割合等は、把握しているか。

(事務局) 第4次プラン策定時の指標として、係長級以上の役職者に占める女性職員の割合がある。令和3年度時が34.9%で第4次プランの最終年度にあたる令和8年度の目標値40%としている。

(委員) これから、地域が一体となって様々な課題を解決していく必要が出てくる中で、防災や福祉の場面等で女性の活躍は非常に重要である。しっかり男女共同参画について啓発をしていってほしい。

【各委員からの感想等】

- (委員) 話しやすい雰囲気作りなど、女性だからこそできることがあるように感じている。デジタル化を進めていくなど時代にあった事業の展開を期待する。
- (委員) 大学を卒業して就職する方達はすでに多様性に対する理解があるように感じる。市全体としても時間はかかるかもしれないが、少しずつ改善されていくと思う。
- (委員) 男性には男性の、女性には女性の得意なことや苦手なことがあるのは当然なのでお互いに理解することが大事。誰でも活躍できる社会を目指すには、相互理解が大切であり、まわりの意識の醸成も重要だと感じている。
- (委員) 女性も男性も活躍できる社会にするには、相互理解とコミュニケーションが大事。企業が積極的にだれでも働きやすい環境を整備することで社会全体にも広がっていくと思う。
- (委員) 連合女性会の会員の約700名の中には、男性も100名程度いる。性別で分ける必要はないと考えている。お互いが認め合うことが重要であり、山陽小野田市はそれが実現できる街だと感じている。
- (委員) 女性の能力は非常に高いと感じることが多い。最近では、女性が企業でも活躍している場面をよく見かける。夫婦で全て解決していくには限界があるので、親等がしっかりサポートすることも大切だと思う。
- (委員) まずは、市民活動推進課の係長級以上の職員の女性割合を50%以上となるよう取り組んでほしい。
- (委員) 男女共同参画の考え方は、すごく様々な分野での事業に関係していることを学んだ。自分が住んでいる地区は女性が活躍できている地区だと感じた。家庭等で幼い頃から、相互理解が育まれる環境であることが重要である。
- (委員) いろんな立場からの意見、感想が聞けて大変参考になった。
- (委員) 最近の企業では、育児休暇を積極的にとるように促すことが増えてきている。それと同時に、「休暇からの復帰のし易さ」も重要な視点である。

以上